平成27年度　第１回安城市環境審議会分科会議事録要旨

日　時	平成27年5月27日(火)午後１時30～３時30分	
場　所	安城市役所西会館２階第３８会議室	
出席者	委　員	永田委員、片桐委員、石川委員、杉浦委員、小峰委員（代理）
	事務局	環境部長、環境首都推進課課長補佐、環境首都推進課環境保全係長、環境首都推進課職員
次　第	１　副市長あいさつ ２　議題 （１）趣旨説明（資料１） （２）課題・問題点整理（資料２・３・４・５） ３　今年度のスケジュールについて（資料６） ４　その他 環境フォーラム２０１５（６月１３日（土）午後１時１５分～）	

１　副市長あいさつ

２　議題

（１）趣旨説明（資料１）

事務局より説明

（２）課題・問題点整理（資料２・３・４・５）

事務局より現状と課題について説明。

＜各自の意見＞

【小峰委員】

ごみの資源回収の中で、古着・紙の割合が高いのが意外だった。資源回収料が減っているのは、資源を燃やすごみに入れているのではないか（洗うのが面倒、乾かす場所がない、メリットを感じない等)、他に、ペットボトルの収集がないので、スーパーに持って行っているのもあるだろう。外からの居住者は、市の分別についていっていないのではないか。再生のルートを知らないから、捨てていると思う。
知ってもらうために、クリーンセンターは、参加者にあんくるバスの利用券をプレゼントする等で、見学会を募集しては。

事務局：関心のない人は、そもそも情報を得ようとしない。転入者にはごみのパンフレットを渡しているが、見ていないようだ。

【石川委員】

我が家は以前８人いたが、今は４人に減った。生ごみは畑に入れていた。息子が一人暮らしを始めたが、一人暮らしでは分別はしないと言っていた。分けずに何でも袋に入れる。一人、二人の世帯が増えて、しかも高齢者が中心になるので、それがネックになるのでは。
１ヶ月孫が来ていたが、紙おむつがものすごい量になった。子供でも週２回の収集

で袋が満タンになるので、高齢者がいればもっとすごい量になる。
ごみステーションが近所にある、可燃ごみはたいてい持って行くが、プラごみは残されてしまうものがある。プラごみの出し方が難しいのではないか。家で整理できる人がいなければ、徹底できないのだろう。
プラごみに出すためにトレイ等を洗うと、水が汚れるので、どちらが環境に良いのだろうか。
スーパーにトレイ等を持って行く際は、他の人の目があるので、きれいにしようと心掛けるようだ。

事務局：昨日の分科会の議論で、油ヶ淵の汚れの原因は家庭だという話もあり、汚れたプラスチックを洗うことに、ためらいはある。
ごみは、整理する人がいないと分別しない傾向はあるだろう。

【杉浦委員】
私は年中ごみの話をしている。先日、きーぼー市でごみ減量のアンケートをした所、有料化に賛成 28 人、反対 161 人、どちらでも良い 12 人だった。
賛成と答えた人は、ごみに詳しい人が多い。反対の人は、お金が必要なのは嫌と言う。ごみ減量は現在頭打ちで、何もしないと、リバウンドが起こりそう。
現在環境アドバイザーで AGK（安城ごみ減量協力隊）を結成し、お祭りの際にごみを勉強させている。ガラポンを活用してアンケートを行っている。

事務局：新潟県長岡市でごみのバイオマス発電事業の見学の際、何か事業をする前に、まず有料化してインセンティブを付けることが大切と聞いた。

【杉浦委員】
町内会でイベントをする際に市が配布するごみ袋は、赤い袋を 1 枚、資源になる黄色の袋を 2～3 枚と、数を変えてはどうか。

【永田委員】
世帯の状況によって袋の数を変えて良いのではないか。

【杉浦委員】
高齢者は難しいが、布おむつならゼロエミッションになる。

【片桐委員】
ごみは企業の問題である。トレイを減らすには、対面販売にすればよいが、そうすると人件費がかさんでしまう。
店頭で古着回収をやっているが、何に使うかをアピールしたら、いつもの３倍ぐらい集まった。何に使うか目的を伝えれば、行動がついてくる。
そろそろお中元の季節で、これまで簡易包装を進めていたが、昨年あたりから従来の包装に戻りつつある。奈良県の大和郡山市では、環境問題はなく、贈り物には熨斗をつけ、店でもらった袋に何でも入れてごみに出す。そういう地域もある。

30～40 代はペットボトル回収には熱心で、子供も小学校で話すとこちらが困るような質問をするぐらい熱心だが、私達の世代は知らないことが多い。ピンクの（燃やせるごみの）袋にたくさん捨ててしまう。こんなこと常識では、というところからPR する必要がある。

事務局：回収したものから何を作るのか知らないことが多い。実はサルビアンは親への PR を狙っている。なかなか届かないところへ情報を届ける役割がある。

【永田委員】
資源回収で、古紙が減っている理由は、①新聞を読まない人が増えているので自然減、②古紙回収 BOX 等があり民間に流れている、が考えられる。

事務局：市内にも民間の回収 BOX が数カ所ある。ごみ減量２０％を謳っていた緊急時とは異なり、より便利な仕組みが求められている。

【永田委員】
NPO で続けている資源回収の広報を、チラシ配布を年２回にしたら、回収方法を変えていないにも関わらず、回収量が減った。単身者にも出しやすい方法を考える必要がある。

事務局：ごみゼロ推進課では、資源回収量の減少は自然減と民間に流れる分の影響と考えている。可燃ごみの増減は、リーマンショック前後の景気の動向を反映していると考えられる。今年 4 月の段階でごみ削減量 21.1％なので、まだ 20％以上を維持している。
永田委員の事前意見にあった 2R は、リサイクルをしない、という考え方で、ごみになるものを減らすことが大切ということ。

【永田委員】
当初は、処分場不足の問題からごみ削減の話が進んだので、リサイクルがゴールになっていた。最近は環境省も 2R に転換した。

＜地産地消について＞
事務局：ごみとして出すものを減らすだけでなく、買う時点でエネルギーを使ったものか、地産地消かを見ることも大切では。地元の野菜は、量は限られるかもしれないが、高いか？

【片桐委員】
量は限られるが、値段は変わらない。

【杉浦委員】
先日、「フードライフはエコライフ」と称して、高齢者教室で話しをした。高齢者が一番環境から遠い存在。年金を大切にして健康に暮らすためには、地産地消で旬

のものを、という話を熱心に聞いてくれた。高齢者教育は環境問題の扱いが少ないので、高齢者教室では参加者の多い第１回に環境問題を扱うように調整してもらっている。
「身土不二」（その土地でその季節にとれたものを食べるのが健康に良い）という考え方をうたっているが、旬のものが何なのか知らない人が多いので、それを伝えている。土地の物は地球温暖化対策にも良い。高齢者には、電気を使うことがどういうことなのかを伝える必要がある。

【片桐委員】
旬のものだけを扱うわけではなく、量を確保するためには他の地方から調達することもある。ただ、地産地消コーナーは人気があるが、量がすぐ足りなくなる。安城といえば梨で、他地方産のものは売れない。碧南産のニンジンも有名で、他のものは売れない。

事務局：地産地消には流通の問題がある。イチジクも遠方、東京に流れていってしまう。

【石川委員】
家庭でも野菜を作っているので、道の駅に同じものが並んでいることになる。店内で観察すると、高齢者のレジカゴには、お惣菜とお寿司が多い。

【杉浦委員】
作るのが面倒になるのだろう。お寿司はそのまま食べられるから。

【片桐委員】
出来合いの惣菜は店でもウェイトが高い。

【石川委員】
２人暮らしの惣菜パック買いが多い。

【片桐委員】
新しい店では、惣菜コーナーが広く取ってある。

事務局：何種もの野菜を使った惣菜は、自分で作れないが、健康に良いと言われると買いたくなる。

【小峰委員】
イチジク等、地元産の作物を使った商品を作るが、消費者のサイクルが早く、続かない。

事務局：毎日食べるものではないので、次に食べたいときになくなっていることも。

【小峰委員】
自宅のある刈谷市で、JA の指導者がついて農業体験をした。自分たちで作ると関心が高まる。体験後は市民農園を紹介してもらい、農作業を続けることが出来る。

事務局：市でもアグリライフ支援センターで、半年ごとに募集している。植え付けの時より収穫の時に参加者が多い。

【永田委員】
地産地消をするにも量が少ない。取り組みをアピールするには、例えば生駒市では、地元のお茶をリユースびんに入れて会議に使っている。

事務局：お茶は安城市でも使ったが、関連の会議だけだった。

【永田委員】
お茶も、びんにすると 2R をアピールできて良い。見せ方を工夫すると良い。地域の人と取り組めるようになる。

事務局：ヤマザキのランチパックの耳のラスクは、いろいろな味が楽しめて良い。

【小峰委員】
嬉しい事に、売れ行きが良い。

【杉浦委員】
以前、牛乳パックを集めてメーカーに持って行っても、古紙利用のトイレットペーパーを使う認識がない時代だったので、結局使われなかった。利用するルートがないと、資源を集めても回らない。

【永田委員】
何かをすると、その結果環境が良くなるという流れが良い。

事務局：地場産業に良い、健康に良い、お金が貯まる事をすると環境が良くなる等。

【杉浦委員】
エコ・クッキングの呼びかけも、「エコ・クッキングで小金持ちに」としている。

＜ポイ捨て・犬のふんについて＞
【小峰委員】
タバコのポイ捨ても、身の危険を感じるので注意できない。
シンガポールのように罰金制にできないか。千代田区の路上喫煙禁止も、当初無料だったが効果が無いので、罰金を課した。実は会社の周りにもポイ捨てが多い。

事務局：タバコのポイ捨てを、駅から市役所に来る間で注意して見たら、かなりの

数があった。公園の子供がうるさいという話も、マナーの問題か。

【杉浦委員】
交差点では、信号の待ち時間に車から捨てる人が多い。駅では、構内では吸えないので、駅の前で捨てる。その際、ごみを見せたくないのか側溝に入れるので、拾いにくくて困る。さわやか条例は知られていないようだ。

事務局：これから啓発する。喫煙場所も囲う等の対策をとっている。
割れ窓理論というのがあって、捨ててあると捨てやすくなるので、市役所の廻りでも、みな同じ所に捨てている。

【杉浦委員】
草が伸びると、草の陰でごみと犬のふんが増える。田んぼでは、あぜの草を刈ると、水田の真ん中に捨てられていることがある。

事務局：鳥居や花壇などがあると、捨てられにくいという。

【石川委員】
NHK の番組「鶴瓶の家族に乾杯」で、子どもや町に来る人にきれいなまちを見せたいと、花壇を作ったり、いろいろなことをしているおじいさんの集まりが紹介されていた。個人ではダメで、団体にしないと動かない。その団体は男だけ。
犬の散歩をすると、田んぼは実は茶色くて汚いことがわかる。この時期は特に思う。ごみも、わざわざ捨てに来たかと思う。田んぼを残していくべきとは言い切れない。

【杉浦委員】
除草剤は JA でも売っている。

事務局：犬のふんも、注意喚起を広報に載せた時に、そのままにしておいて何が悪いという意見があった。

【石川委員】
ふんは、田んぼのあぜにあればまだ良いが、アスファルトは目立つ。

【杉浦委員】
ふん処理グッズを持っていても、使わない人がいる。

事務局：自然のものは自然に返すという姿勢が必要、キャンプでも、掘った穴は埋めるもの。

【片桐委員】
全社的に、駐車場周辺でポイ捨てが多い。マナーしかない。自分で清掃することを徹底させ、何年もかけて周知させた。しかし、市役所が市民を教育するのは難しい

だろう。
売り場でレシートが落ちていても、店員が拾わない。店員には、家と同じだから拾いなさいと言っているが、一般には周知できていない。
くわえタバコにも罰金を科し、5～10 年で何とか実現した。社員以外にも、入り込んでいる専門店にも周知したが、なかなか難しい。

＜社員教育について＞
事務局：社員教育は、市役所の研修でも同様である。飲酒運転は懲戒免職になると話すと、車通勤をやめると言い出すことも。
企業では、従業者（単身）への働きかけが大切かもしれない。

【小峰委員】
会社としての対応は、研修は新人だけなので、数年経つと効果が薄れてしまう。

【片桐委員】
新人は、何でも分けずにごみ袋に入れるので、分別のひどい袋は収集業者のヒラテから戻される。月 1 回の勉強会を何度もやって、19 分別出来るようになる。社会人として最低限のマナーを守ることは当然として、分別をそこまでやるのが上場企業人のマナーとして適切だということを伝える。

事務局：安城市民ではない人も多いが、マナーはどこでも共通。ごみの分別は、クリーンセンターで事業系ごみの中身をチェックして、紙の混入が多いものは持ち帰ってもらうようにしている。

【片桐委員】
ごみをクリーンセンターで受け取らないこともあるので、ヒラテから指導がある。そこまでやらないと減量できない。

事務局：この取り組みで、焼却するごみが 0.2%は減ったと見ている。

＜その他＞
【永田委員】
マナーは地域に対する誇りから生まれると思う。地域で、ごみのある所とない所を小学生に調べてもらい、ワーストを、広報を使って知らせてみては。

事務局：ABK が市内の小学校と一緒にごみを拾った時の子どものコメントは、普通の人なら心を動かされるのではないか。家の中ならば捨てないという感覚が大切。生鮮食品で、買い物客の取り扱いが悪くてダメになる食品ロスは、相当大きいのではないか。

【片桐委員】
食品ロスは 150 万ぐらい、発注を誤ると 200 万ぐらいになる。果物は切ってみない

と味が分からない、肉は時間が経つとドリップが出る、売り切れても苦情が寄せられるので、見極めが難しい。

３　今年度のスケジュールについて（資料６）
事務局より説明。

４　その他（資料６）
事務局：環境フォーラム２０１５（６月１３日（土）午後１時１５分～）の説明。

（以上）